

ネットワーク社会の更なる発展を支える光通信技術 論文特集の発行にあたって



ネットワーク社会の更なる発展を支える光通信技術論文特集編集委員会

委員長 上田 裕巳

光通信技術の進歩は、コアネットワークからアクセスネットワークに至る通信ネットワーク全体の劇的な高速化を実現し、社会インフラとしてのブロードバンドサービスの全国的な普及を可能にしている。これをベースとして、クラウドコンピューティングの進展やスマートフォンに代表される移動体端末の進化が推し進められ、より高度なサービスが実現されつつある。光通信技術は、このようなクラウド時代の新たなブロードバンドサービスを支え、急増する移動体トラフィックに対応するために、更に発展していくものと期待されている。

このような状況を踏まえ、光通信技術関係の四つの研究専門委員会（光通信方式研究会、光ファイバ応用技術研究会、フォトニックネットワーク研究会、通信方式研究会）、及び和文論文誌B編集委員において、ネットワーク社会の更なる発展を支える、コアネットワーク分野及びアクセスネットワーク分野の新たな光通信技術に関して特集号を企画し、幅広く論文を募集することとした。

寄せられた論文に対して厳正かつ公平な査読を行った結果、3編の招待論文、1編の解説論文を含む、15編の論文を採録するに至った。招待論文は、菊池和朗先生（東京大学）のデジタルコヒーレント技術、佐藤

健一先生（名古屋大学）のフォトニックネットワーク技術、吉本直人氏（NTT）の光アクセス技術に関するものであり、解説論文は、轟真市氏（（独）物質・材料研究機構）のファイバフューズに関するものである。本分野における研究動向、現在の到達点、将来展望などの有益な情報を提供している。一般論文はネットワーク技術、システム開発から要素技術まで多岐にわたっており、光通信技術の研究動向を幅広く提供している。

本特集が、光通信技術関係の研究者・技術者にとって、研究を進める上で参考となり、新しい技術開発や研究の一助となれば、我々編集委員会の望外の至りである。

最後に、本特集の発行にあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員、編集幹事、及び学会事務局担当者に深く感謝する。

上田 裕巳（正員：フェロー） 1975東工大・工・電子卒、1977同大学院修士課程了。同年日本電信電話公社（現NTT）入社。NTT研究所において、デジタル信号処理、同期伝送方式、SDH伝送システム、ATM伝送システム、ATM-PON・B-PONの研究実用化に従事。1993博士（工学）。2003から東京工科大学コンピュータサイエンス学部教授。IEEE Fellow。

ネットワーク社会の更なる発展を支える光通信技術論文特集編集委員会

委員長	上田 裕巳
幹事	可児 淳一・宮田 英之
委員	池田 博樹・植之原 裕行・大越 春喜・太田 昌孝
	神尾 享秀・小泉 佑揮・小崎 成治・齊藤 晋聖
	島田 達也・外林 秀之・坪井 利憲・廣岡 俊彦
	丸田 章博・吉田 真人